

令和5年度 東京都立井草高等学校 学校経営計画

校長 粕谷 真由美

1 目指す学校

(1) スクール・ミッション

「知性と感性を磨き自らの健康を培いながら向上進取の精神で自己実現を目指す」教育理念のもと、真理を探究し、問題を解決する態度や責任を重んじて自主的に行動できる生徒を育てます。さらに、国際交流プログラムや異文化交流を通して国際人の育成に力を入れグローバルに活躍する人材を育成します。

(2) スクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力）

本校では、4つの資質・能力の育成を目指します。

- (ア) 真理を探究し、課題を解決しようとする態度
- (イ) 自主・自律の精神
- (ウ) 社会で前向きに生きていく力
- (エ) 国際社会で活躍し、貢献できる力

② カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施）

本校では、次の4点を特色とする教育活動を実施します。

- (ア) 真理を探究する喜びを知り、課題解決に挑戦するための高い教養を身に付ける授業。
- (イ) リーダーシップ、フォロワーシップを学び、自主・自律の精神を磨く学校行事と部活動。
- (ウ) 自分を見つめ、視野を広げて、夢に向かって着実に進む井草夢プロジェクト。
- (エ) 自国に対する理解を深め、異文化を学び、多様な価値観をもつ人々と共に学ぶ国際理解教育。

③ アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ）

グローバルに活躍する人材を育てる進学校として、次のような生徒の入学を期待します。

- (ア) 学習意欲に富み、自らの目標に向けて学業に励むとともに、高い教養を身に付けようとする生徒
- (イ) 学校行事や部活動等の特別活動に積極的に参加し、自主・自律の精神を磨こうとする生徒
- (ウ) 志を高くもち、失敗にくじけず、物事に前向きに取り組む意欲をもつ生徒
- (エ) 異文化に興味と関心をもち、国際理解教育に積極的に取り組む意欲をもつ生徒

2 中期的目標と方策

(1) 高い志と自主・自律の精神を養う。

基礎・基本の確実な定着を基盤に、体験的・探究的な学習を取り入れ、生徒が学問に興味・関心をもち、学ぶ喜びや感動を実感することで志高く自ら学びに向かう教科指導を実践する。また、社会や生徒の実態を踏まえ、教職員と生徒とが知恵を出し合い創意工夫を凝らすことで、学校行事、生徒会活動、部活動等の特別活動を充実させ、自主・自律の精神を育むとともに、様々な課題に対応できる能力と態度の育成を図る。

(2) 自らの進路を切り開くことができる人材を育成する。

大学進学等、将来の進路実現に向けて、学業に継続して努力する態度の育成を目指し、学びへの動機づけを確実にするために、キャリア教育の充実を図る。また、自主・自律的な家庭学習につながるよう教科指導の充実と工夫をさらに推進する。さらに、特別活動の自主的な企画・運営、継続的な読書活動、プレゼンテーション能力を高める教育活動を通して、論理的思考力、考察力、及び自分の意見を的確に表現する能力を育てる。

(3) 国際社会で活躍する人材を育成する。

国際理解教育を通して多様な人々を受容する精神を育むとともに、地域や他校等との連携を深め、率先して社会に貢献しようとする態度を育成する。また、国際交流事業の充実を図ることで、多様な価値観の理解や言語能力向上への意欲を育て、国際社会におけるリーダーとしての資質を育成する。さらに、教科学習はもとより教育活動全般においてICT機器を活用した教育を進め、高度な情報化社会に適応できる能力を育成する。

(4) 教育力向上を図るため、不断に挑戦する教職員集団を創る。

より高きを目指し挑戦するプロ集団として、教育活動を積極的に公開・発信し、常に改善を図る。また、企画調整会議を中枢に教育系職員と行政系職員の協働体制を確立し、学校運営の効率化を図るとともに、教科主任を中心とする組織的な教科指導の充実を目指す。加えて、働き方改革によりライフ・ワーク・バランスを推進しながら、互いの個性を尊重し生き生きと働く「チーム学校」としての成長を目指す。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導

- (ア) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向け学習指導の改善を図り、観点別評価等、学習評価の改善に取り組む。
- (イ) 国公立大や難関私立大を第一志望とする生徒の進路実現を目指し、高い学力を身に付けさせるための質の高い教科指導を保証する。
- (ウ) 教科主任を中心に、各教科・科目の指導の重点を明確にし、年間指導計画等で具体的に学習内容を示すなど、生徒が意欲をもって学習を継続できるよう指導と評価の一体化をさらに推進する。
- (エ) 学習課題の指示や反転授業の導入など家庭学習に意欲的に取組ませるための工夫を行う。
- (オ) 生徒が学問に興味・関心をもち、学ぶ喜びや感動を実感できるよう、教員の専門性に特化した集中講座など、学問への憧憬へとつながる教科指導を実践する。

② 生活指導

- (ア) 学校行事や部活動等の特別活動を一層充実させ、生徒の健全育成に努めるとともに、ガイドライン等を踏まえた特別活動の実施について、教員の指導の下、生徒に挑戦させ、自主・自律の精神を育む。
- (イ) 社会のリーダーとしてTPOに応じた行動ができるよう、基本的な生活習慣、集団生活でのマナー、人権感覚についてきめの細かい指導を行い、規範意識と社会性を育成する。
- (ウ) いじめや体罰は絶対に許さない、見逃さないを徹底するとともに、SOSの出し方に関する教育により、自他の生命を尊ぶ態度を育成する。また、SNSの利用、交通安全など、学校安全計画年間指導計画に基づき、学校全体で指導の充実を図る。さらに、地域消防署等と連携し防災教育の充実を図る。
- (エ) 教育相談と特別支援教育の視点から生徒情報を共有し指導に生かす校内委員会を定期的の実施するとともに、生徒が自らの個性を肯定的に認識し、自立していくための組織的な教育活動を推進する。

③ 進路指導

- (ア) 進路指導部主導による総合型選抜の面接等指導、模試分析会、ケース会議等を実施するとともに、生徒及び保護者に適時、十分な情報発信と面談等を行う。また、生徒がより高きを目指し最後まで挑戦することができるよう、進路相談室機能を充実させ、指導内容について全教職員の共通認識を図る。
- (イ) 3年間を見通したキャリア教育について進路指導部を中心に内容の詳細を全教職員で共有し、各教科、分掌の横断的かつ有機的な取組を推進していく。
- (ウ) 長期休業日中の各教科の講習は、目標とするゴールを明確にし、自主・自律的な学習と高い志を維持させる指導内容となるよう工夫を図る。
- (エ) 生徒が第一志望の進路を実現するため、担任や教科担当と連携し、放課後等に個別の相談活動や教科指導を実施することで、生徒の志を肯定し、励まし支える指導を推進する。

④ 国際理解教育

- (ア) 入学から卒業までに何らかの国際交流の機会をすべての生徒が享受できるよう、機会の充実と情報の発信を推進する。
- (イ) 自分とは異なる他者を敬い、受容の精神で自らの学びにつなげられるよう、ブリティッシュヒルズ語学研修、オーストラリア国際交流、海外修学旅行前指導等の充実を図る。
- (ウ) JETやALTを活用した日常的な異文化理解教育と言語教育を充実させ、有志の活動や放課後の体験学習、英語検定の指導を充実させるなど国際社会で活躍するための基礎的な資質を育成する。
- (エ) 都教育委員会が提供するグローバル人材育成事業を積極的に活用し、国際理解教育の充実を図る。

(2) 学校経営の目標と方策

- ① 保護者、地域、及び中学生の理解を得るために、学校見学会・説明会、授業公開等の機会とともに掲示板やICT環境を活用し、教育の成果が見えるよう情報発信の工夫を行う。
- ② 若手教員に対するOJTを実施し、チーム力の向上を図るとともに、全教員が授業の相互参観による学び合いと生徒の見守りを充実させる。また、実践の成果と課題を紀要にまとめ、教育力の向上につなげる。
- ③ ペーパーレス化、電子化を推進し、業務の効率化を図る。また、個人情報適正な管理と計画的かつ効率的な業務遂行を図るため、各分掌ごとに日を定め、執務環境の整理・整頓を徹底する。
- ④ 生徒のサインを見逃さない専門性を高めるため、専門家を講師とする校内研修を年間1回以上実施する。
- ⑤ 校内研修の年3回実施等、服務規律の遵守を徹底し、体罰等不適切な指導、ハラスメントを根絶する。
- ⑥ 経営企画室の経営参画機能を高め、計画的・効率的な予算の編成等を通して、教育活動の改善につなげる。
- ⑦ 年次有給休暇等の計画的な取得により、心身の健康を保ち、自己研鑽に励む時間を確保するとともに、男性の育児参加などライフ・ワーク・バランスの実現を目指す。

(3) 今年度の具体的数値目標

今年度の具体的数値目標		
①学習指導		
(ア)	生徒による授業評価、学習への意欲喚起に関する肯定的評価	90%以上
(イ)	家庭学習の定着（週10時間以上）	1学年70%以上 2学年75%以上 3学年80%以上
(ウ)	第1、2学年観点別評価の実施	100%
(エ)	教科会の実施	年間5回以上
(オ)	国公立大学や難関私立大等入試問題分析の実施教科	6教科以上
②生活指導		
(ア)	学校評価アンケート、生徒による特別活動に関する肯定的評価	90%以上
(ウ)	学校事故発生件数	0件
(エ)	部活動加入率	90%以上
(オ)	部活動ガイドライン遵守	100%
(カ)	生徒情報を共有し指導に生かす校内委員会の実施	年間10回以上
③進路指導		
(ア)	進路決定率	80%以上
(イ)	大学進学率	95%以上
(ウ)	共通テスト受験者	90%以上
(エ)	国公立大学現役合格者	11名以上
(オ)	難関私立大学（早大・慶大・上智大・東理大）現役合格者	21名以上
(カ)	GMARCH（学習院大・明大・青学大・立大・中大・法大）現役合格者	130名以上
(キ)	授業外個別指導の実施	教員一人当たり5名
④国際理解教育		
(ア)	次世代リーダー育成道場等、海外での学習機会への応募者	56名以上
(イ)	国際交流事業	年間3回実施
(ウ)	英語検定合格者	1級1名 準1級10名 2級100名
⑤学校経営		
(ア)	学校見学会・説明会参加者数(延べ数) 授業公開参加者数(延べ数)	2,000名以上 1,000名以上
(イ)	体罰等不適切な指導、性的ハラスメントなど服務事故発生件数	0件
(ウ)	整理・整頓の日年間（延べ数）	14回
(エ)	夏季休暇の完全取得 年次有給休暇の取得	全員 年10日以上
(オ)	すべての教職員が完全休養する学校閉庁日	5日以上
(カ)	経営企画室職員、超過勤務（月平均）	10時間以下